

校区で育てる

第3号

平成29年10月

芳泉中学校区地域

協働学校連合編集部

「防災」に関する地域の活動に参加することで、学校での学びと地域づくりの意識がつながっていきます

芳泉中学校 「人と未来防災センター」 研修
浦安小学校区 「楽しく学べる防災講座」
芳泉小学校区 「芳泉学区防災訓練」

阪神淡路大震災、東日本大震災を経験して、私たちは自然の力を前にした人間の無力さをあらためて思い知らされました。一方で、復興の助け合いの中で、思いやりや助け合いがいかに多くの人々を救うことができるかということも再認識させられました。

こうした経験を経て、各地で防災の取組が盛んに進められるようになりました。そして、これまで以上に人々の「つながり」が叫ばれるようになっていきます。

今回の地域協働学校だよりは、「防災」を中心とした学校教育活動と地域連携の活動の「つながり」を生み出す取組について、中学校の「人と未来防災センター（神戸市）研修」、浦安小学校区の「楽しく学べる防災講座」、芳泉小学校区の「芳泉学区防災訓練」について、企画や運営に携わった方々にお話を伺いたいと思います。

編集部：芳泉中学校の二年生が五月に行った「人と未来防災センター」はかなり大きなインパクトを与えたことが、「研修のまとめ」から

もよく伝わってきますね。

武田（芳泉中二年主任）：南海トラフ地震の大きな被害は、必ずいつかは起こります。それが起こったとき、私たちが



は大切な人やものを失うかもしれないですね。でも、それを乗り越えて生き残ったもので復興していかなければならぬのです。そのとき、お互いの助け合いがどうしても必要となるわけですから、悲しみを乗り越え、励まし合いながらできることから行動できる人に育ってほしいと考えて、この研修を企画しました。

編集部：語り部さんによる講話の中で、「生徒の皆さん、いざというときに助けてもらいたかったら、普段から近所の人にあいさつしなさい。…瓦礫の中から救出された人の78%は消防などの救済組織によるものではなく隣近所の人に助けられたのだから。…この震災の時、普段からあいさつを交わしてい



語り部さんによる講話の様子

る子どもの安否が確認されなかった時には、「あの子はこの家の子どもははずだ」と、みんなで最優先で助けにいった。…」という話が強く印象に残っていますが、やはり、隣近所の人と顔が合った関係になっているというところは、大きな災害などに見舞われたときには特に大切なことといえますね。

武田（芳泉中二年主任）：語り部さんも思い出さなくていいような辛い事実をしっかりと伝えていこうとされていました。生徒達が、そうした思いをしっかりと受け止めて、自らの地域作りのために行動していただけることを願っています。

浦安学区「楽しく学べる防災講座」 南海トラフ大地震に備えた取組

浦安小学校区では、平成二十九年七月二十九日（土）に、浦安小学校PTA主催による「楽しく学べる防災講座」を開催しました。今年度が第一回の講座でしたが、南海トラフ大地震に備えて「もしも保護者不在の時に地震が起こったらどうするの？」というテーマのもと、東日本大震災で被災された方の経験談をはじめとして、「非常持ち出し袋を作ってみよう」というイベントでは非常持ち出し袋の中身を考えたりに、体験型ブースでは、段ボールトイレや車椅子、毛布タンカなどの組み立てや体験を行ったりしました。また、被災したときに伝言板に何と書けばお父さんやお母さんに自分のことが伝わるかを考える「防災かくれんぼ」というメニューにも取り組みました。



この防災講座を企画された浦安小学校PTA会長の小坂さんにお話を伺いました。

編集部：この企画を今年度からはじめられたきっかけはどのようなものだったのでしょうか。

小坂（浦安小PTA会長）：…この防災講座を企画された浦安小学校PTA会長の小坂さんにお話を伺いました。編集部：神戸の震災でも、一日分としておにぎり一個がとどけられるまでに五日かかったというお話もありますから、水と非常食の備蓄は是非ともどの家庭でも心掛けたいものですね。



南公民館だよりも書かせていただきましたが、南海トラフ大地震はいつ起こるかわかりません。夏休みに

平成二十九年九月二十四日（日）に、芳泉中学校グラウンド、及び芳泉

芳泉学区「防災訓練」 中高生も避難所運営のサポート要員として活躍

平成二十九年九月二十四日（日）に、芳泉中学校グラウンド、及び芳泉

小学校・中学校体育館を会場として「平成二十九年第五回防災訓練」が開催されました。今年度は、段ボールを使ったトイレやベッドの作り方の実習、蘇生法、煙体験、消火訓練、非常食の試食などの従来



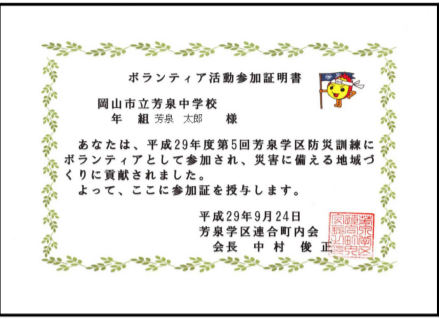
応急給水栓の設営講習の様子



段ボールトイレの組み立て

のプログラムに加えて、小学校と中学校の間の敷地に備えられている応急給水栓を設営するための講習を初めて行いました。

参加者は運営スタッフを含めて三百八十六名で、中には運営ボランティアとして参加した三十九名の芳泉中学校の生徒、及び十六名



の岡山芳泉高等学校の生徒が含まれていました。今回の中学生の参加について、防災訓練の主催者である芳泉学区連合町内会の中村俊正会長さんにお話を伺いました。

編集部：中学生や高校生は、年齢的にも災害時には、「お年寄りや児童・園児を助ける存在」として役立つことが期待されていますよね。

中村（芳泉学区連合町内会長）：そうですね。芳泉小学校区の人口は、年々増加しており、現在では二万人を超えています。こうした地域で大きな災害が起こると相当な混乱が起こると思います。防災訓練は今年が五回目ですが、毎回中学生や高校生が大勢参加していただいて大変ありがたく思っています。



災害の時に、は、すべりが不自由になり、人々が戸惑う

状況が想定されますが、そうした中で、一人でも多くの防災や減災のスキルを持った人がいるということが、いざというときの対応にとっても大切な役割を果たすと思っています。

私も、様々な地域の防災訓練を勉強して、自分たちの地域の防災訓練をよりよいものにするにはどうしたらよいかをいつも考えています。次年度には、たとえば「高校生が考えた避難所」というようなアイデアを発表してもらいな



段ボールトイレ・ベッドコーナーの事前打ち合わせを行う岩谷さん(右端)

編集部：人のつながりを深めるための防災活動を中心とした地域連携のポイントをどう考えておられますか。岩谷（南公民館）：芳泉中学校区の年代別人口比率によると三十三〜四十歳の世代が多くなっ

ど、様々な人たちの見方や考え方を取り入れながらこの地域の防災に少しでも役立てるように取り組んでいきたいと思っています。編集部：中学校では、今年度の新しい試みとして、中村連合町内会長さんをお願いして「ボランティア活動参加証明書」を発行させていただきましたが、来年度以降ますます主体的に防災訓練に参加する中学生、高校生が増えていくとよいですね。

防災士の資格を持つ職員が地域の防災の取組をしっかりとサポートします

南公民館では、中高生の防災ボランティア活動をコーディネートしています

これまで紹介してきた浦安、及び芳泉学区の防災訓練をしっかりとサポートしているのが地域づくりの拠点である南公民館（小林誠館長）です。ここには、防災士の資格を持つ職員が二名配置されており、各地区の防災訓練のサポートなどで大きな役割を果たしています。ここでは、防災士に関する地域連携の在り方について尋ねてみました。

代」が多いわけで、その方々が防災訓練に積極的に参加していただける意義は大きいと思います。また、中学生がボランティアに参加することはこの土地に住む一員として地域に対する愛着を深めることにつながります。役割を持って地域社会と関わる経験を積み重ねることにより、いざというときに地域の方々と協力して自らの住む地域を守っていかねばならないという気持ちが高まっていくことが大切だと思います。

防災への協力は日常の行動から「ゴミのない町づくりの大切さ」

また、持続可能な社会を築く上でも、防災訓練への小中学生の積極的な参加や元氣な親世代の活躍が期待されています。そのためには、これからの防災訓練においては、PTAのアイデアを取り入れたブースの展開や地域の実情を踏まえたプログラムづくりが求められているといえるでしょう。

編集部：台風のときにはたくさん雨が降ります。昔はたくさん田んぼが一時的水池の役割を果たしていましたが、宅地化が進んだ地域ではそうした機能が著しく低下しています。

浦安地区、芳泉地区に降り注いだ雨水は排水溝や用水路を伝って笹ヶ瀬川や児島湖に流れていきませんが、それらの水位が上がってくと住宅地にたまってきた水が排水できなくなってしまう。

◆◆災害の記憶を先人が残した場所を地域の人に聞いてみましょう◆◆

東日本大震災の後、よく調べてみるとたくさんの過去の天津波の痕跡が地層の中から見つかったというような報道が多く見られました。岡山市内にも過去の大水害を忘れないためにモニメントを残しているところがあります。国道250号線の門田屋敷の交差点から少し北に行くと三動小学校がありますが、この小学校の道路沿いの塀の上に直径が50cmくらいの丸い玉が置かれていることに気がついて、不思議に思った人もいるかもしれません。この丸い玉は、過去にあった大水害でこの位置まで水位が上がったという記憶を地域の人々が残したもので言われています。このように、よく注意してみると、それぞれの地域で過去の大きな災害を忘れないように先人達が残してくれたものがあると思います。浦安地区・芳泉地区にはどのようなものが伝えられているか、記録・記憶を含めて児童生徒のみならず自身が調べてみたり、地域の大人の人に聞いてみたりして、防災の意識を高めていきましょう。

洪水であふれた泥水には、下水からの逆流物などが含まれており衛生上も大きな問題があります。大水害を過去に経験された方の中には、水が引いた後のひどい悪臭を忘れることができないと言われる方もおられます。実際に、世界各地の被災地では、洪水の後にコレラなどの危険な伝染病が大流行することも起こっています。こうした状況が起こることを防ぐための最も大切な設備は排水ポンプです。大雨の時にポンプによる排水が機能しないと水はどんな市街地にたまって広い地域で床下あるいは床上浸水の危険にさらされます。そのため洪水の恐れがあるときには地域の方々が徹夜で状況を監視してくださっているのです。

ここで、児童生徒の皆さんに注意してほしいことは、このポンプを動かすときに最も困るのが用水路を流れてきたゴミだということです。ポンプの取水口のゴミを取り除くのに時間がかかるとポンプ稼働が遅れるために大きな被害が出るのです。

自分の家の周りの道路や用水路にゴミを捨てないこと、流さないことも実は大切な防災の取組への参加ということを知っておきましょう。

編集後記
一九八五年九月十九日に大地震に襲われ大きな被害を出した教訓を忘れないために今年の防災訓練を行っていたメキシコで全く同じ日に再び大地震が起こりました。日本も何度も大地震が繰り返して起こってきた歴史を持っている国です。過去の災害の教訓を少しでも受け継ぎ、「減災」に向けて力を合わせていきましょう。

なお、これまでに発行しました地域協働学校だより「校区で育てる」のカラーPDF版を中学校のホームページの「学校長より」のコーナーに掲載していますのでご覧ください。

